

平成28年1月24日

風は東から *To be continued...*

新人戦地区大会は準優勝！！
四月の関東大会に向けリスタート！！

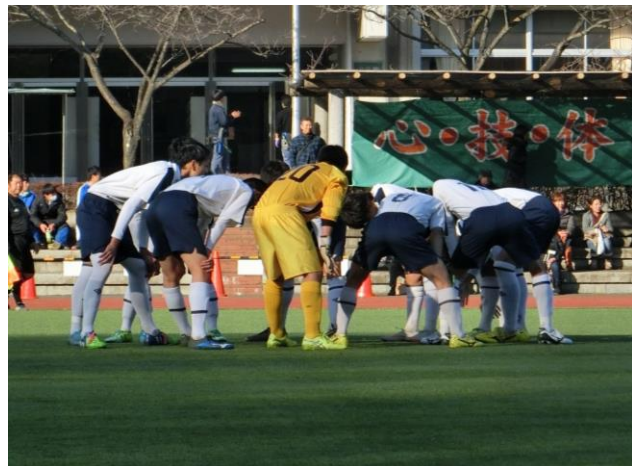
負けに不思議な負けはなし !!

関東大会都予選に向け、この冬は昨年以上泣くほど鍛えて追い込む!!

全国高校サッカー選手権大会の準決勝と決勝の狭間となった、1月10日（日）に、新人戦七地区大会の決勝が、対戦相手である明大中野八王子高校（以下、明八）のグラウンドで行われました。明八にとっては、勝手知ったるホームグラウンドで、尚且つ強豪野球部の友情応援を背に受けて、決勝戦を迎えられたことは、大きなアドバンテージとなったことと思います。近年、選手も揃い、着実に力を付けてきている明八との一戦は、今年の七地区の勢力図を占う上でも大切な一番でした。決勝戦は、どちらが勝っても新人戦初優勝です。新人戦の優勝杯を東高に持ち帰るためには、負けられない闘いが、東高のキックオフで始まりました。

ゲームは生き物である。公式戦の流れを引き戻す難しさを学んだ !!

明八が立ち上がり慎重にゲームに入ってきたからか、キックオフ直後は相手陣地に押し込み、絶好の位置でのフリーキック、コーナーキックから立て続けに先制のチャンスを得ました。しかし、前半4分にこのゲーム最初の明八の攻撃がオウンゴールを誘い、今大会初の先制点を奪われます。これで、明八の緊張が解けたのか、シンプルにボールを動かし、サイドへ展開してからチャンスを伺います。特に、左サイドはトリッキーなプレーとアイディアを擦り合せた二枚での崩しで何度もチャンスを演出します。東高は、早い時間帯の失点に慌てた様子は見られませんでした。この日は肝心なところでイージーミスや雑なプレーが目立ち、決定的なチャンスは作りますが、前半だけでも十本以上打ったシュートがゴールに結びつきません。東高が押し込んでいるようですが、ゲームは明八のペースだったのかもしれませんが。



<七地区では新興勢力同士による決勝戦。一年間を占う大切なゲームとなった!!>

結果を直視し、潔く“負け”を認める。この姿勢こそが、チームの成長に繋がる!!

後半5分には、アンラッキーな形でコーナーキックから失点…。完全にゲームの流れは明八に傾きますが、主導権は依然と東高のままで時間は経過していきました。それでも、早めに一点返したいという子どもたちの焦りは、ベンチにも伝わってきましたが、シュートは打つものの正確性に欠けゴールを奪えずに、時折、明八のカウンターからピンチを招きます。しかし、後半17分に待望のゴールが生まれ一点差に。更に嵩に懸った攻撃から追加点を奪うチャンスが何度も訪れますが、この日はなかなかゴールが遠く、逆に、スローインから一瞬の隙を突かれ左サイドを突破され追加点を奪われます。アディショナルタイムにショートコーナーから一点を返しますが時すでに遅く、結局**2-3**で敗れました。

負けに不思議な負けはなし!! 先ずは、この結果を謙虚に受け止め、勝負に敗北したことを認める潔さこそが、東高サッカー部の今後の成長に繋がり、子どもたちを勝利へ導いていくと思っています。「**ゲーム内容はどうあれ、勝ったチームが強いのだ!!**」(**ベッケンバウアー**) 決勝戦に於いて勝利するためには、相手より足りなかったことが多かったのです。東高スタイルで相手を打ち破れなかったことや力を発揮できなかったことに向き合い、この敗北の悔しさこそが、人間を成長させる起爆剤となります。この冬は、昨年以上に厳しい**TR**を行い、四月上旬に行われる関東大会都予選で結果を残せるよう、泣くほど走って、走って、走って…。鍛え上げていきたいと思います。

<After the Game>

今年度の新人戦地区大会では、初戦は大勝したものの、続く明星学苑、工学院には苦戦を強いられました。その教訓を活かし、代表決定戦の調布南戦では、東高らしいサッカーで都大会出場を決めました。決勝戦では残念ながら敗れたものの**準優勝**そして**都ベスト32**という結果は、東高サッカー部にとっては、一步一步ですが着実に前進していると思います。また、新人戦を勝ち上がったことで、公式戦という真剣勝負を五試合も闘えたことは、**TRM**では得られない収穫がありました。この経験値は大きいですね。今後のチーム作りに繋げていきたいと思います。

今大会は残念ながら決勝で敗れはしましたが、今後も「**東高スタイル**」を継続して貫き通し、次の大会では、**スキルフルなプレー**で凌駕し、魅せて勝てるよう、この冬も日々精進していきます。



<新人戦は**準優勝**!! 負けた悔しさが子どもたちを成長させチームを押し進める!!>